



広野火力6号機の早期着工を要望

今後の整備計画について説明する鼓紀男常務取締役（写真中央）

現段階で広野火力6号機は計画どおり （鼓紀男 常務取締役原子力・立地本部副部長）

4月26日に、本町議会議員全員で東京電力(株)本店を訪ね、広野火力6号機の早期着工をお願いするとともに、今後の整備計画等について説明を求めました。

これに対して、東京電力は、現在の電気事業において、小売自由化の対象が東京電力の販売電力量の6割以上に相当する顧客にまで拡大され、他企業との競争が激化するとともに、ガスや自家発電との競争も進展するなど、東京電力を取り巻く事業環境が一段と厳しさを増していること。

また、現在の電力需要に対して、これまでの施設整備計画が行き過ぎた状況にあるため、見直しを迫られていると説明しました。

結果的には、広野火力6号機の早期着工を求める本町議会に対し、東京電力の責任者である常務取締役原子力・立地本部副部長の鼓紀男氏は、「電力需要と施設整備を検討するにあたり、石炭火力については重要視しているため、18



訪問の趣旨を説明する坂本紀一議長

年の段階では計画どおりとしている。もう少し離脱需要や電力需要の見直しを見て行きたいので、22年運転開始については検討させていただきます」と言及するにとどまりました。

最後に、本町議会としては、訪問の趣旨を十分ご理解いただき、広野火力6号機について特段の配慮をしていただくようお願いして会談を終えました。

町政を問う 一般質問

交通事故多発の原因は道路の線形にある

交通安全対策の実施を強く要望している…町長



新妻 良平 議員

問 (1) 「森林環境税」導入にもなう町の基本方針

福島県は、4月1日から「森林環境税」を導入しました。

これは、県民・法人から広く徴収するもので、税収は約8億円から10億円が見込まれています。

また、これを基金として積み立て、森林整備や環境学習の推進に役立てるなど、市町村の森林づくりに施策の一部交付されます。

広野町も多くの森林をかかえる

町として、この環境を守り、将来の世代に引き継がねばなりません。水源地として、教育、産業の場として、人工林・自然林、町有地・民有地を問わず共有の財産として、総合的に保全して行かなければならないと思います。



交通事故があとを絶たない折木・上原地区

ばならないと思います。今後の基本的な方針と町長の考えを聞かせてください。

(2) 県道いわき〜浪江線

県道いわき〜浪江線は、地域住民の通勤、通学等の生活道路として多大な貢献をしている道路です。

しかし、大字折木字上原地内で頻発する交通事故は、見通しが悪いなど、その原因が道路の線形にあることは明らかです。

地域住民の安全を守るためにも、県と町、地域住民が一緒になって考え、なんらかの対策が必要かと思いますが、町長の考えを聞かせてください。

答 山田町長

(1) 町の全体面積の76パーセントは

山林で、民有林面積は約2,900ヘクタールで、全体の42パーセントの比率です。

また、人工林は66パーセント、自然林は34パーセントです。

今後は、小・中学生を対象とした環境学習ほか、県や森林所有者とも充分協議して行きます。

森林は、人命や財産をおびやかす災害の未然防止、また、地球環境保全の観点からも極めて重要な大きな課題だと認識しています。

これまでの経済的価値判断を重視した施策から、防災や環境問題にシフトした施策に転換する機会であるところと考えています。

(2) 県道いわき〜浪江線の安全対策については、以前から県に対して再三要望しています。

この地区は、一部歩道が設置されましたが見通しが悪いため、さらなる安全対策が必要です。

このため、道路管理者である県相双建設事務所および富岡土木事務所と県公安委員会で協議して、法的規制も視野に入れた交通安全対策を実施するよう強く要望しているところです。